

大河内地区まちづくり協議会 大河内地区防災計画 ～地区の助け合いルール作り～

平成31年1月
笹川町山村地区

笹川町山村地区の概要

人口	世帯数	65歳以上の割合
212人	64世帯	28.8%

(平成30年3月現在)

山村地区の特徴

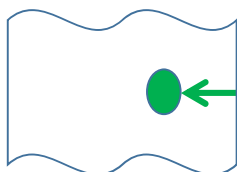
北西に堀坂山・観音岳があり、山村地区は東西斜面に位置しています。
山村地域と高畑地域に分かれて丘陵地に位置します。
主に北西には、果樹園が広がり南東側に住宅地域があります。大きな河川はなく水害の危険はほとんど見られない。

過去の災害経験

全焼の住宅火災が、数件ありました。
集中豪雨や台風による田畑の水害が時々ありました。
川の増水により、道路の通行が困難になる。

南海トラフ地震等の被害想定

・南海トラフ地震時にはどのような状況になると思われるか？（別紙①に記入）



山村地区



別紙①

1. 風水害の被害想定

時間当たり的大雨が50mm/h超えるようになると小さな河川がオーバーフローして道路上に氾濫し始める。

要支援者の方には、不安なため、事前に状態の把握や精神的な援助が必要であり、状況に応じて親戚や集会所の避難を促す必要がある。基本は自宅待機である。

2. 地震の被害想定

緊急地震速報の時には、あわてずまず身の安全を確保することを第一とするが、震度6～7の地震が発生すれば、耐震補強していない住宅が90%を超えるため倒壊の危険があります。

丘陵地のため、ところどころに石積があり、崩れる危険があります。地震の時には、火災を起こさないことに注意が必要である。停電、断水が発生する恐れがあるため、井戸のある家では飲料水の確保が必要。

笹川町山村地区避難計画

山村地区の目標

「防災の役割(自己責任で)」

山村地区の緊急避難場所

「山村集会所、大河内小学校」

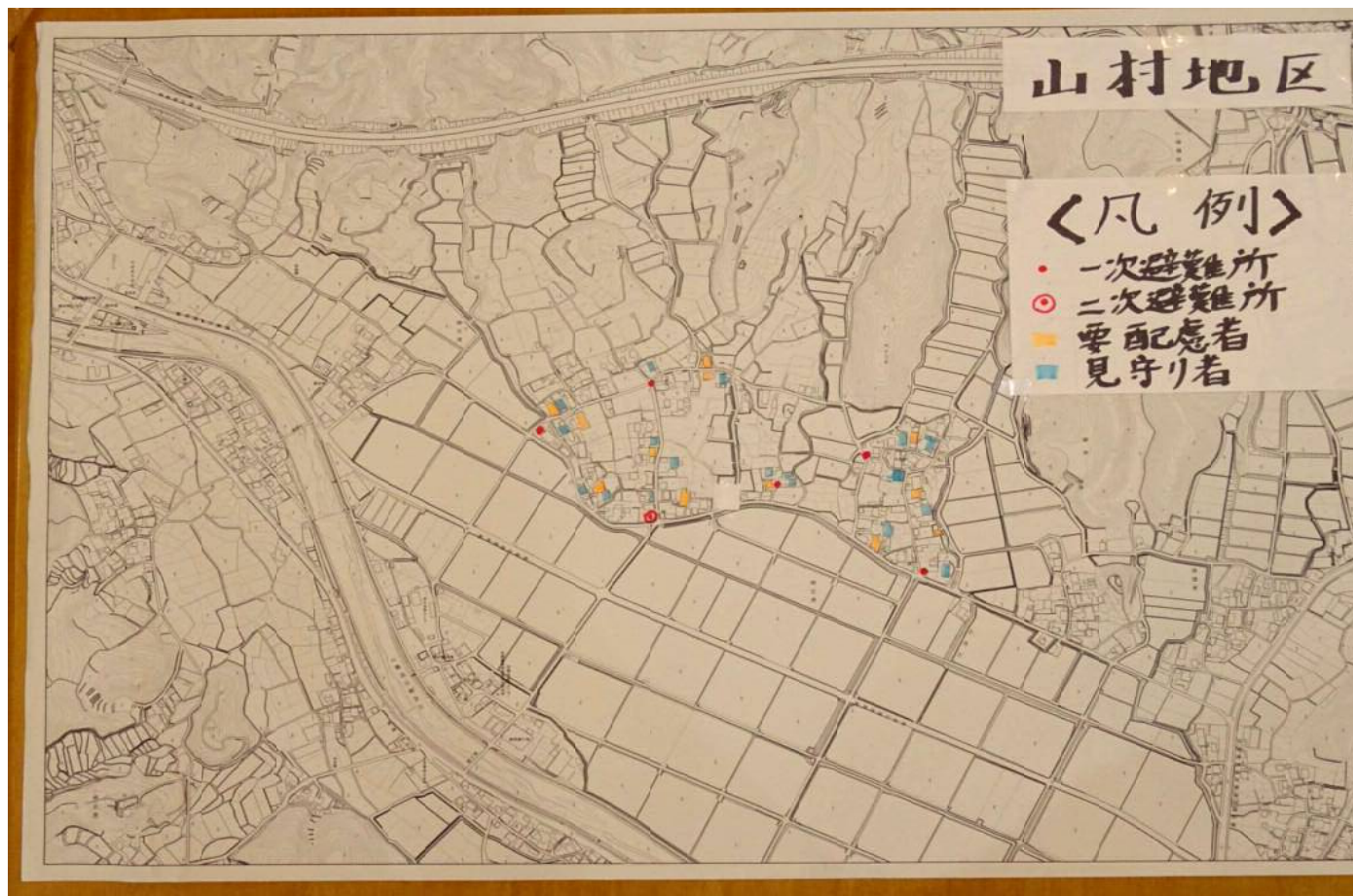
避難行動時の基本ルール

- 両隣にお声がけをする。
- 要支援者の方を優先して避難する。
- 地区避難場所に集合して徒歩にて避難する。

避難所運営時の基本ルール（地区一時避難所）

- 要支援者・乳幼児を優先して、避難所内に場所を決める。
- プライバシーを守ること。
- 自主防災組織の役割をしっかりと実行して、リーダーとして行動する。

笹川町山村地区における避難所等の位置



笹川町山村地区の避難先と避難時のルール（風水害）

① 台風接近前の避難

- ・基本的には、自宅待機が良いと思われる。
- ・一人暮らしの方へ、事前に訪問して避難できるか確認する。

② 台風接近直前の避難

- ・基本的には、自宅待機が良いと思われる。
- ・自宅に請われるところがある場合を除いては、自宅待機が良い。
- ・一時避難所の場合は、坂・石垣があるので十分気を付けて避難する。

③ 避難勧告等発令時

- ・基本的には、自宅待機が良いと思われる。
- ・もし発令されれば、十分気を付け地区一時避難所に避難する。

④ 付近の用排水路増水時

- ・小さな川であるが、水かさが増えると危険になるので、川の近くを避けて避難する。

避難時の 留意点

- ・避難する際には、避難先を隣近所等に連絡することとし、連絡を受けた住民は、速やかに自治会（自主防災協議会）会長へ報告する。
- ・大雨時に避難する際には、一人で避難せず、複数人で避難する。
- ・自治会（自主防災協議会）会長は地区住民の避難先を把握し、避難先への避難支援が必要な者がいないかどうかを確認する。
- ・避難支援する際には、要支援者に対して複数の支援者で対応するように予め取り決めておく。

笹川町山村地区の避難先と避難時のルール（地震）

①平時の確認事項

- ・家族で防災について話し合う。・非常時の備蓄品を準備しておく。
- ・倒れそうな家具等がないか確認しておく。緊急連絡先をすぐわかるようにしておく。

②地震発生直後の行動

- ・落ち着いて、身を隠す。
- ・家族の安否確認、火の元を確認する。
- ・ラジオをつける。
- ・靴を履く。

③避難行動時

- ・余震に注意、隣近所で助け合う。
- ・ブロック塀、かれきに近づくな、漏電・ガス漏れに注意。

④避難所到着後

- ・住所氏名の確認、家族の安否。・自宅、近隣の状況報告。

避難時の
留意点

大河内地区防災計画のPDCAサイクル

作成目的 大規模災害発生後72時間(3日)までの地区の助け合い計画

活用組織 自治会、自主防、福社会、消防分団、学校区等を活用

活用費用 市からの補助・助成を確保し、これを活用しながら進めていく

